

# 令和7年度 南アルプス市立若草南小学校 学校関係者評価

南アルプス市立若草南小学校  
校長 永関 修

## 令和7年度 小中一貫校 南アルプス市立若草南小 学校経営方針

### I 若草地区小中一貫校教育目標

「よく学び 心豊かで たくましい児童生徒の育成」

#### 目指す児童生徒像

- 自ら学び、深く考える児童生徒（知育）
- 心豊かで 思いやりのある児童生徒（徳育）
- 健康でたくましい児童生徒（体育）
- 意欲をもち 最後までやり抜く児童生徒（意欲）

### II 学校教育目標

「学びを深め 心豊かな たくましい子ども」

- 具 体 目 標
- 自ら学び 深く考える子ども（知）
  - 豊かな心で 思いやりのある子ども（徳）
  - 体をきたえ 最後までやりぬく子ども（体）

#### 目指す学校像

- 笑顔あふれる学校
- 学び合い 高め合い 信頼し合う  
地域と共にある学校

#### 育てたい児童像

- 人の痛みがわかる思いやりのある児童
- 自分の考えをもち、チャレンジする児童
- 若南プライドをもち、ふるさとを愛する児童

若南プライド：地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で 地域に誇りを持ち、自尊心を高める、積極的な活動に取り組む精神・自他の尊重・多様性を認め合う精神

### III 学校経営方針

- 1 児童や地域の実態をふまえた適切な教育課程の編成と実施に努める。
- 2 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。
- 3 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。
- 4 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。
- 5 特別支援教育（特別支援学級・通級指導教室）の充実に努める。
- 6 児童の安全・安心を守り、家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。

### IV 具体的な取組

#### 1 児童や地域の実態をふまえた適切な教育課程の編成と実施に努める。

- (1) 新学習指導要領の理念をふまえた若草地区小中3校の9年間を見通した教育課程の編成と改善
- (2) 幼稚園・保育園・若草小学校・若草中学校との連携を考えた教育課程の編成
  - ◆中学生や園児との交流推進 ◆情報交換会の充実 ◆児童会・生徒会活動など、交流会の計画的実施
- (3) 各教科や道徳、総合的な学習の時間、学校行事を含めた特別活動など横のつながりと異学年間の縦のつながりを考えた効果的な教育課程の編成

- (4) 全教育活動を通じた体系的なキャリア教育の推進
  - ◆地域探検や施設見学 ◆福祉体験 ◆栽培活動 ◆10歳を祝う会 ◆キャリアパスポートの活用
- (5) 学校内外の教育資源の活用と体験学習の充実
  - ◆地域教材・人材の活用 ◆体験的活動（地域学習を含む）

## 2 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。

- (1) 学習意欲の向上や基礎的・基本的事項の確実な定着を意識した授業づくり
  - ◆反復繰り返し学習 ◆市単講師によるTTや少人数指導
- (2) 学習スタンダードに基づいた授業づくり
  - ◆若南学習スタンダード（学習モデル・学習プロセス・学習ルール）の定着化
  - ◆問題解決的な学習展開，見通しと「対話」のある授業づくり
- (3) 『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な授業づくり
  - ◆子供主体の授業づくり ◆他者との協働的学習の場づくり
  - ◆端末などのICT利活用 ◆各教科の特質に応じた言語活動の充実
  - ◆外国語教育の充実
- (4) SDGsの視点を取り入れた学習活動
  - ◆自然環境，資源，貧困など地域，世界の諸活動について自らの課題として考える学習活動
  - ◆若草地区3校の児童会・生徒会との協働活動の実施
- (5) 組織的・計画的・継続的な校内研究の充実
  - ◆学級づくりと授業実践を中心とした校内研究の推進 ◆一校一実践・一人一実践の取組
- (6) 家庭学習の習慣化とアウトメディアの取組
  - ◆家庭学習の手引きの活用 ◆家庭学習取組強化週間 ◆主体的に取り組む学びノートの活用
  - ◆長期休業中のアウトメディアの取組 ◆SNS，オンラインゲームについての防犯講話実施
- (7) 教科担任制の推進（グループ担任としての意識改革）
  - ◆専科教員が行う教科指導 ◆担任が交換授業として行う教科指導（道徳を含む）
  - ◆学年グループとして取り組む児童の状況確認と改善

## 3 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。

- (1) 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育の推進
  - ◆人権尊重の理念に基づく教育活動
  - ◆話の聞き方 みとめ合い名人のアイコンタクト ①いね ②なずき ③がおおっけー  
あいづち名人 ④あなるほど ⑤いねそれ ⑥んうんわかるよへ ⑦ーそうなんだ ⑧ーすごい
    - ◆場に応じた丁寧な言葉遣い
- (2) 全ての子の居場所のある居心地のよい学級経営の充実
  - ◆所属感，自己有用感，自己肯定感を持たせる取組の工夫 ◆スリンプルプログラムの実施
  - ◆Q-Uの活用 ◆学校生活アンケートの活用 ◆SOSの出し方に関する教育の実践
- (3) いじめ，不登校の早期発見と迅速・組織的な対応・指導
  - ◆生徒指導提要に基づく「学校いじめ防止基本方針」の見直しと指導及び保護者への周知
  - ◆いじめ調査（学校生活アンケート）の実施と活用
  - ◆ケース会議の実施と共通理解による組織的対応強化，関係機関との連携
- (4) 学校教育全体を通じた道徳教育の充実及び読書活動・音楽活動の推進
  - ◆考え，議論する道徳の推進 ◆道徳公開授業の実施
  - ◆朝読書の効果的実施 ◆図書集会の活用 ◆読み聞かせの取組 ◆歌声タイム ◆音楽会
- (5) 児童会を中心とした仲間づくり・集団づくり
  - ◆あいさつ運動 ◆縦割り班活動 ◆ボランティア活動
- (6) 集団生活のルールやマナーの徹底
  - ◆月ごとの生活目標 ◆あいさつ運動 ◆無言清掃 ◆全校集会や全校放送の活用

◆**若南プライド**「心のやりとりきちんと**あいさつ**・心を向ける**返事**・心をそるえる**くつそろえ**」

#### 4 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。

- (1) 運動の日常化による基礎体力づくり  
◆体育的行事の計画的実施 ◆「健康・体力づくり一校一実践運動」の取組
- (2) 粘り強く最後までやり抜く意思を育てる指導支援  
◆体育授業の充実 ◆粘り強さを大切に学習指導の充実
- (3) 基本的な生活習慣の確立と保健指導の充実，給食指導を中心に食育の充実  
◆たよりや掲示物，学級指導，保健集会の活用 ◆給食週間の取組

#### 5 特別支援教育の充実に努める。

- (1) 児童の実態に応じた特別支援学級の運営  
◆校内支援委員会の定期的な開催
- (2) 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営  
◆特別支援学習会の実施 ◆ユニバーサルデザインの活用
- (3) 交流学級・在籍学級の担任，保護者・関係諸機関との連携を活かした指導支援の充実  
◆機能的なケース会議開催 ◆外部の専門機関や関連行政機関との連携  
◆「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用
- (4) サポートルーム若草南小のセンター的機能の充実  
◆校内外のニーズをもつ児童のアセスメント ◆教育相談

#### 6 児童の安全・安心を守り，家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。

- (1) 小中一貫校の取組推進  
◆若草地区小中3校との連携・交流 ◆地域人材の活用 ◆地域行事への参加・地域貢献  
◆学校運営協議会運営に向けての協議
- (2) 自らの命は，自ら守る「危険回避能力」の育成  
◆地震・火災想定避難訓練 ◆不審者対応訓練 ◆救命救急法訓練 ◆引き渡し訓練 ◆交通安全教室  
自転車教室の実施 ◆起震車・煙体験の実施 ◆防犯講話 ◆危機管理マニュアルの充実と改善
- (3) 自己の健康安全に関する意識向上を図る保健指導の徹底  
◆感染症や熱中症に関する指導 ◆食物アレルギーに関する指導と組織的対応  
◆身体的配慮の必要な児童への組織的な対応
- (4) 学校評価や保護者アンケートを活かしたP D C Aサイクルによる学校運営，教育方針の改善  
◆自己評価・学校関係者評価の実施 ◆児童・保護者アンケートの実施  
◆行事後の教職員や保護者アンケートの実施と総括，改善
- (5) 授業参観，各種たより，HP，安心メールによる情報発信  
◆学校開放日，授業参観，学校行事への参加等教育内容の積極的公開  
◆学校通信・学年通信・学級通信・保健だより・図書だより・給食だより等の発行  
◆HPでの情報発信や安心メールを使った緊急連絡の活用
- (6) 学校運営協議会制度の効果的活用とP T Aや地域との連携協力  
◆地域ボランティアの活用 ◆学校評議員会の開催 ◆P T A専門部の活動
- (7) みんなのウェルビーイングを目指した働き方改革の推進  
◆時間外在校等時間の縮減 ◆定時退勤日と絆の日の実施（子供と向き合う時間の確保）  
◆全員が担当者としての主体的な取組を推進（校内研修の実施）  
◆働きがいの向上を目指した支え合う教職員組織「チーム若南」

## 令和7年度 学校評価の実施について

南アルプス市立若草南小学校

### ◆ねらい

各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について目標を設定し、その達成状況を把握・整理し、取組の適切さを検証することにより、学校として組織的・継続的に改善を行うことができる。また、結果を公表することによって、保護者・地域住民と情報や課題を共有し改善を進めていくことができる。(開かれた学校づくり、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり) 教師にとっては自分自身の教育活動を振り返り、改善をしていくひとつのきっかけになる。

### ◆日程

○アンケートについては、教職員、保護者、児童とも Google Forms を利用する。

#### ○保護者アンケート

- ・12月 1日(月) アンケート依頼の配付
- ・12月12日(金) 回答しめきり
- ・12月11日(木) 未回答者への呼びかけ(あんしんメールで)

#### ○児童アンケート、職員アンケート

- ・12月 1日(月)～12日(金) に実施

#### ○アンケート結果の比較・考察

- ・12月15日(月)～1月 8日(木)

#### ○考察(自己評価)

- ・1月 9日(金) 職員会議

#### ○第4回学校運営協議会への諮問

- ・1月27日(火)

#### ○保護者への報告

- ・3月 2日(月) ホームページ上で公開

#### ○南アルプス市教育委員会へ提出

- ・1月30日(金) まで

## 【 評価方法 】

教職員に対して WEB 上のアンケート機能 (Google Forms) により回答を得た。質問に対しての回答選択肢は、基本的に4段階になっている。

A：とても・よく~している

B：だいたい~している

C：あまり~していない

D：~していない

(E：対象外)

このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価として捉える。AとBのどちらを選ぶかCとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・性格・回答時点の状況等が関係するため A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりもA・B合わせてのプラス傾向C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が全体的な傾向をつかみやすくなる。

そこで A・B・C・Dの選択肢を点数化し A=4 B=3 C=2 D=1として集計し、回答者数で割って平均点数をもとめた。平均点数は次のような意味をもつ。

○全体にプラス評価 (A・B) が多ければ、平均点は2.5以上になり、4点に近づいていく。

○全体にマイナス評価 (C・D) が多ければ、平均点は2.5未満になり、1点に近づいていく。

なお、自己評価まとめの表には、比較として昨年度の平均点数を載せてある。ただし、「課題・意見」として、C及びD評価をつけた場合に具体的な内容を書いてもらうこととした。

また、回答できない項目については、E：対象外 を設けているが、これについては点数には含めないものとする。今後、保護者のアンケートにも回答の選択肢として E：わからない を設けるが、これも点数には含めない。

## 【 全体評価 】

教職員アンケート、児童アンケート、保護者アンケートのそれぞれの集計結果を見ると、いずれも昨年度と同様に肯定的な評価の値が高い結果となった。

令和4年度から、保護者、児童へのアンケートについては、Google Forms を利用して WEB 上で回答する形式としている。スマートフォンやタブレットを使って気軽に回答できること、回答方法に慣れてきたことなどの理由から、否定的回答もしやすくなっていると思われる。経年比較をするためには、同様の方法を継続していく必要がある。

児童については、一人一台のタブレット端末を用いて回答させた。

- ・教職員アンケートの結果は、15項目に対し、すべての項目で評価の平均が3.1を上回る高い評価結果であった。(最も低い項目⑧でも3.4、項目⑤でも3.3となっており、昨年度の3.2を上回る安定した結果である)
- ・児童アンケートの結果は、10項目すべてにおいて平均が3.1以上のプラスの評価であった。評価の平均が3.1であったのは「授業中に発言や質問または意見を言いますか」「困ったとき、だれかに相談できますか」の2項目であった。
- ・保護者アンケートの結果は、10項目のうち、9つの項目で評価の平均が3.2以上のプラスの評価であった。評価の平均が3.0を下回ったのは「子どもは、家庭学習の習慣が身に付いている」の2.9(昨年度と同数値)の1項目であった。

以上のことから、若草南小学校では学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて、一人一人の教職員が保護者の理解と協力のもと、それぞれの職務を遂行してきたことにより、教育活動全般にわたって適切な指導が行われ、そのことが児童や保護者に肯定的に評価されていると考えられる。したがって、本校の学校評価に係る総合的な評価は概ね良好な水準にあると言える。

しかし、一つ一つの結果に目を向けてみると有意性は見られないまでも昨年度からポイントが低くなっている項目が各アンケートで見られる。教職員、児童、保護者のそれぞれの調査について、以下のアンケートごとの評価で考察し、課題を明らかにして改善を図っていきたい。

令和7年度 学校評価 教職員アンケートのまとめ  
 ※項目によっては職員の職務内容上合計数に違いがあります。

\* 4段階評価 A: そう思う B: ややそう思う C: ややそう思わない D: そう思わない

	番号	評価項目	評定				平均点数			課題・意見
			A	B	C	D	R6	R7	R6R7差	
1 学校生活について	①	子どもたちが、楽しく学校生活を送れるよう努めている。	73%	27%	0%	0%	3.6	3.6	0.0	・子どもの挨拶が少ないと感じるので、これからも挨拶の声かけを続けていきたい。毎朝児童玄関で、挨拶をしてきている先生方がいて、ありがたい。 ・声をかけているが、十分ではないなど感じる。 ・朝の登校班安全指導の際も感じるが、あいさつがあまりにもできないように感じる。学校全体で統一感を持った指導が必要。
	②	すすんであいさつをする指導の充実に努めている。	69%	24%	7%	0%	3.6	3.4	-0.2	
2 学習指導について	③	子どもに基礎的な学力が身に付く指導を行っている。	62%	38%	0%	0%	3.5	3.5	0.0	・落ち着いて話を聞けるように環境を整えたり、指示はナンバリング（黒板に示す）したりして話すようにしている。 ・聞く態度の指導について、担任でない立場でどこまで指導をしているのか、迷ってしまうことがあった。クラス毎の特色もあるので、担任以外の立場として、できることを考えていきたい。 ・家庭学習を見てくれる家庭が多くはない。学校に任せているのか、放任なのかどちらとも言えないが、低学年からチェック等のシステムを家庭でも習慣にもらえるような指導が自然にできたらと思う。
	④	児童を授業に集中させるための指導（聞く態度）に努めている。	64%	36%	0%	0%	3.6	3.5	-0.1	
3 家庭学習について	⑤	家庭学習を定着させるために工夫している。	41%	59%	0%	0%	3.2	3.3	0.1	・家庭学習を定着するために、宿題の量ややり方を共有する必要がある。
4 生徒指導について	⑥	児童理解に努め、いじめ・不登校・問題行動等への予防に努めている。	66%	34%	0%	0%	3.5	3.7	0.2	・何かあった時、管理職が相談にのってくれるので、とても助かりました。 ・何かあった場合、管理職の先生方が常に親身になって対応してくれている姿を見ると、とても安心して指導にあたれます。ありがとうございます。
	⑦	生徒指導について、組織的かつ迅速に対応している	59%	41%	0%	0%	3.7	3.6	-0.1	
5 学校運営について	⑧	校務分掌は適切に分担され、意欲的に取り組める環境にある。	14%	71%	14%	0%	3.1	3.4	0.3	・1人の人が同じ分掌を数年続けることは、その分野の研究や自己研鑽に繋がると思うが、組織としては前担当者がいるうちに次担当者に託すことができると、引き継ぎもスムーズで何かあった際には助言ももらえる安心感があると思う。
6 学校行事について	⑨	学校行事は職員の共通理解のもと、子どもたちが楽しく参加できるように計画されている。	48%	52%	0%	0%	3.3	3.4	0.1	

7 校内研究について	⑩	校内研究会に主体的に参加し、授業力の向上に努めている。	50%	46%	4%	0%	3.3	3.4	0.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援やSRの先生方の温かい支援のおかげで、子ども達が安心して学習に臨んでいます。ありがとうございます。</li> <li>・交流学級にお任せになってしまうことが多く、申し訳なく思っています。</li> <li>・児童の特性や課題を理解・共有した上で、支援の方向性を確認しあい役割分担しながら、子ども達の手を伸ばしてあげたいと思います。</li> <li>・多くの先生方が支援に入っただきありがたいです。一方で、担任の指導方針とずれていてトラブルに繋がるケースも見受けられたように感じました。学級担任の指導方針を理解したうえでの支援をお願いしたいです。</li> </ul>
	⑪	特別支援教育に対する校内支援体制が機能している。	50%	47%	3%	0%	3.2	3.4	0.2	
8 施設・設備・安全管理について	⑫	安全点検を計画的に実施し、危険箇所・修理箇所の対応ができています。	59%	41%	0%	0%	3.6	3.6	0.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯に対する訓練を実施できるとよい。</li> <li>・災害の避難訓練は定期的にできているが、不審者等への対策はここ数年やっていないので、職員だけでも緊急時の対応を確認しておきたい。</li> </ul>
	⑬	緊急時の対応(防災・防犯)について共通理解が図られ、計画的に訓練が行われている。	38%	52%	10%	0%	3.6	3.5	-0.1	
9 学校と家庭との連携について	⑭	授業参観・懇談会・部会を相互理解のために計画し、工夫・改善に努めている。	54%	42%	4%	0%	3.6	3.5	-0.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職の方にも報告・相談することで、安心して保護者と向き合うことができている。</li> </ul>
	⑮	保護者からの各種相談について、誠実に対応している。	81%	19%	0%	0%	3.7	3.9	0.2	

【自由記述】若草南小のいいところ、課題となるところがありましたら書いてください。

【よいところ】

- ・職員間の雰囲気が良いと思います。困った時に助けていただき、感謝しています。水曜日課のおかげでゆとりのある時間や教材研究の時間ができました。みなさんお忙しいので、今後もゆとりが欲しいです。
  - ・良いところ:子どもたちの素直と教職員のチームワーク。
  - ・職場が明るくて、お互いに話しやすい雰囲気がある所
  - ・管理職の先生が親身になって相談にのってくれる所
  - ・特技発表会が創立からずっと行われているのが若草南小の素敵な伝統だと思った。
  - ・自然観察園の水辺や木々にいろいろな生き物が住んでいたり遊びに来たりして、実際に観察できるのは貴重な環境だと思う。
  - ・職員間で、いろいろ助け合っていて、いいと思いました。
  - ・水曜日課で掃除なしにしたのはとても良い。出張や会議の時間が確保できるようになった。
  - ・校長先生を中心にいつでもチームで対応して下さるので心強い。
  - ・管理職の先生方がいつも温かくサポートして下さり、相談しやすく働きやすい環境づくりをしてくださる事です。
  - ・水曜日課を導入したことは、事務の時間が増え、働き方改革に繋がっていると思います。
  - ・子どもたちの挨拶への意識
  - ・管理職の先生方の雰囲気がとても和やかな雰囲気で業務にあたれます。ありがとうございます。
- できる人に頼るのではなく、全員でやる、誰でもやる、という雰囲気があればもっと素敵な職場になると思います！！
- ・教職員にやわらかい雰囲気の人が多いところがいいところだと思います。
  - ・子どもの活躍できる行事や場、機会が多く設けられているところ。

【課題点】

- ・あいさつができません。廊下を走る児童も多いです。指導していますがなかなか改善できません。
  - ・学校の決まりが曖昧になってきているので、年度初めの職員会議だけでなく、2学期、3学期のはじめに、若南基本ガイド保存版の確認をしていくとよいと思う。
  - ・昼休みは13時25分~ですが、20分ごろには休み時間が始まっている子が多くいます。時間いっぱい掃除を頑張っている子から不満が出ている様子も見受けられるので、改善が必要です。
  - ・某保険屋がチャイムを鳴らさず職員室を出入りするのはどうかと思います。
  - ・課題ばかりですみません。
- 廊下、階段が埃っぽく、あまりきれいではない。あいさつができない。廊下で大声を出す子が多い。トイレスリッパの整頓ができない。
- ・児童が病院に行くため早退する時など、門のところで一人待っている姿を見たことがありました。担任の先生が、親の車まで、送って行っているのもみたことがあります。担任が、いつも、引き渡すのは難しいと思うので、早退する時は、児童は保健室で待ち、保護者には忙しくても、玄関のインターホンを鳴らしてもらおうとかして、職員が保護者に確実に引き渡す方が、良いのではと思いました。児童が一人で門の所で、一人待つのは、安全管理上、良くないのではと思いました。

令和7年度 学校評価 保護者アンケートのまとめと考察

A：そう思う B：ほぼそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

評定は小数第1位を四捨五入、合計が100%にならない場合もある。

No	項目	評定				平均点数			考察
		A	B	C	D	R6	R7	±	
1	児童について① ①子どもは、学校に行くのを楽しみにしている。	46%	44%	9%	1%	3.4	3.5	0.1	肯定的評価が90%に達しており、多くの児童が前向きに登校できている。日々の授業や学校行事を通じた充実感が、登校への意欲につながっていると推察される。今後も、児童一人一人が「居場所」を実感でき、明日も行きたいと思えるような、活気ある学校づくり・学級づくりを継続していきたい。
2	児童について② ②子どもは、友だちと仲良く生活している。	50%	45%	4%	1%	3.5	3.4	-0.1	肯定的評価の割合は95%と非常に高く、児童同士の良好な関係性が維持されている。平均点がわずかに減少した要因としては、集団生活の中での些細なトラブルや、個々の人間関係の悩みに対する敏感さが表れたものと考えられる。引き続き、道徳の時間や行事を通じた「認め合い」の場を充実させ、互いを思いやる心の育成と、トラブル時の適切な解決能力をはぐくむ指導に努めたい。
3	児童について③ ③子どもは、家でも地域でもきちんとあいさつをしている。	30%	56%	12%	1%	3.1	3.2	0.1	この項目は昨年度も課題とされており、A評価の割合が30%となっている。他の項目と比べると依然として低い傾向にある。しかし、平均点は改善の兆しが見られる。児童会活動や地域と連携したあいさつ運動等の取組が、少しずつ意識向上に寄与していると考えられる。今後は、学校内だけでなく家庭や地域という場でも自発的にあいさつができるよう、地域の方々との交流機会を増やし、社会性の定着を促していきたい。
4	児童について④ ④子どもは、家庭学習の習慣が身についている。	21%	51%	23%	4%	2.9	2.9	0.0	肯定的評価は72%であり、平均点2.9は昨年度と同様の数値となっている。A評価が21%と全項目の中で最も低く、依然として家庭学習の習慣化が大きな課題であることがうかがえる。家庭での学習内容の定着に向け、学校からの家庭学習の提示の仕方を工夫するとともに、保護者との連携をさらに密にし、児童が意欲的に家庭学習に取り組みめるよう支援を継続していきたい。
5	学校について① ⑤学校は、基礎・基本の定着を図る取組や学習のつまずきなどに積極的に取り組んでくれている。	36%	58%	6%	1%	3.3	3.3	0.0	肯定的評価が94%に達しており、昨年度に引き続き高い評価を維持している。各担任によるきめ細かな支援体制や授業展開が、保護者から一定の信頼を得ていると推察される。今後も、一人一人の学習状況を的確に把握し、つまずきに応じた個別の指導・支援を一層充実させることで、学習内容の確実な定着と、児童の「わかった」「できた」という実感につなげていきたい。
6	学校について② ⑥学校は、思いやりの心や社会のルールを守る態度を育てている。	45%	50%	4%	1%	3.4	3.4	0.0	昨年度同様、肯定的な評価が95%と非常に高い水準にある。教職員が共通理解のもと、一貫した指導を継続していることが、児童の落ち着いた生活態度や意識の高まりに寄与していると考えられる。今後は、児童会活動を通じた児童同士の啓発や、日常的な声掛けを大切にしながら、互いを尊重しルールを遵守する態度の育成に努め、ウェルビーイングの向上を図っていきたい。
7	学校について③ ⑦いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	40%	51%	7%	2%	3.3	3.3	0.0	肯定的評価が91%と、昨年度に引き続き高い水準にある。道徳の時間をはじめ、教育活動全体を通して互いを認め合い、理解し合える学級・学校づくりに努めてきた成果が表れている。今後は、児童一人一人の多様性を尊重する豊かな感性をはぐくむとともに、教職員が共通理解をもって、いじめの未然防止と早期発見・早期対応に万全を期していきたい。
8	学校について④ ⑧学校は、教育活動に適した施設・設備が整っている。	39%	54%	6%	1%	3.4	3.3	-0.1	肯定的評価は93%と非常に高いものの、平均点は昨年度より0.1ポイント減少した。今後は施設の安全管理を徹底するとともに、GIGAスクール構想による一人一台端末の効果的な活用を一層進め、児童にとってわかりやすく楽しい授業が展開できる環境づくりを推進していきたい。
9	学校について⑤ ⑨学校は、授業参観や運動会等で、子どもの様子を見る機会を設けている。	70%	29%	1%	0%	3.8	3.7	-0.1	全項目の中で最も高い肯定的評価（99%）を得ており、保護者の満足度は極めて高い。平均点の微減については、行事の在り方や公開の形式に対する多様なニーズが反映されたものと考えられる。今後は、家庭や地域に開かれた学校として、児童の活動の様子を効果的に発信し、より豊かな体験・経験を共有できる機会を検討していきたい。
10	学校について⑥ ⑩学校は、保護者からの相談や要望に適切に対応している。	51%	45%	4%	1%	3.5	3.5	0.0	肯定的評価が96%に達し、平均点も3.5ポイントと高い水準を維持している。保護者の声に耳を傾け、迅速かつ誠実に対応しようとする教職員の姿勢が評価されたものと推察される。今後は、スクールカウンセラー等の外部専門家とも密に連携しながら、保護者にとって相談しやすい、あたたかく開かれた相談体制を継続・充実させていきたい。

令和7年度 学校評価 児童アンケートのまとめと考察

A：そう思う B：ほぼそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

評定は小数第1位を四捨五入、合計が100%にならない場合もある。

No	項目	評定				平均点数			考察
		A	B	C	D	R6	R7	±	
1	①学校(がっこう)は 楽(たの)しいですか。	59%	32%	7%	2%	3.6	3.5	-0.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童が学校生活を楽しいと感じており、肯定的な評価が91%と非常に高い水準にある。昨年度の平均点(3.6)からは0.1ポイント微減したが、依然として楽しいと思える学校づくりの成果は維持されている。</li> <li>・あいさつについては平均点が3.3と、昨年度から横ばいであり、児童会活動等での取組を継続しつつ、地域の方へのあいさつを含めた定着が今後の課題である。</li> <li>・係・当番活動やそうじについては、肯定的評価が97%(A評価68%)と極めて高く、自分の役割に責任をもって取り組む姿勢が本校の誇れる文化として根付いている。</li> <li>・今後も高学年が下級生のよき見本となる姿を奨励し、互いに認め合いながら、主体的に学校生活を創り上げる態度の育成に努めていきたい。</li> </ul>
2	②あいさつをしっかりとっていますか。	52%	31%	15%	3%	3.3	3.3	0.0	
3	③学級(がっきゅう)での係(かかり)や当番(とうばん)のしごと、そうじをしっかりとっていますか。	68%	29%	3%	0%	3.7	3.7	0.0	
4	④学校(がっこう)の授業(じゅぎょう)がわかりますか。	57%	37%	4%	2%	3.4	3.5	0.1	
5	⑤先生(せんせい)や友達(ともだち)の話(はなし)をしっかりと聞いていますか。	66%	31%	3%	0%	3.7	3.6	-0.1	
6	⑥授業中(じゅぎょうちゅう)に発言(はつげん)や質問(しつもん)または意見(いけん)を言(い)いますか。	41%	30%	22%	6%	3.0	3.1	0.1	
7	⑦家庭(かてい)で宿題(しゅくだい)や自主学習(じしゅがくしゅ)を自分(じぶん)からすすんでしていますか。	52%	29%	15%	4%	3.4	3.3	-0.1	
8	⑧こまったとき、だれかに相談(そうだん)できますか。	44%	30%	16%	9%	3.3	3.1	-0.2	
9	⑨学校(がっこう)のきまりや約束(やくそく)が守(まも)られていますか。	53%	41%	7%	0%	3.6	3.5	-0.1	
10	⑩いじめや悪(わる)いことをしている人を見たら、先生(せんせい)や友達(ともだち)にいえませんか。	53%	30%	15%	2%	3.4	3.3	-0.1	